

ブラジヤーの設計に関する基礎研究(第3報)-モアレ法による胸部形態の把握-
 大下学園女短大 ○田中麻佐子 京都女大家政 土井サチヨ 福井弥生
 高山絹江 藤田仁美 滋賀女短大 奥村葦 山田家政短大 白石寿子

目的 1・2報では計測値による考察を行なったが、本報は静立時における乳房部の形状についての検討を行ない、ブラジヤーの設計に関連づけうる知見を得た。

方法 体型を部分的に把握するのに有効と思われるモアレ法を用い、乳房部の形状を検討した。被験者は第1報の中からカップサイズ別に選んだ。使用カメラは、投影型モアレカメラFM80である。撮影条件は、レンズ主点間距離400mm、レンズの前主点より基準面までの距離2740mm、レンズの焦点距離301mm、格子ピッチ0.1mmとし、縞間隔5.7mmの等高線写真を得た。

撮影は、乳房部を明確にとらえるため、乳頭点を中心にモアレ縞の発生する方向とした。解析は、乳頭点を基準に水平・垂直の切断図を描き、乳底の幅、長さ、乳房の高さおよび曲率角度を求めた。

結果 (1) 垂直切断図における乳底の長さは、約11±1cmである。水平切断図の乳底の幅との割り合いは、1:1.2~1.5の範囲である。

(2) 若年では、垂直・水平方向の両切断図とも、曲率角度は近似であるが、高年では、垂直切断図の曲率角度よりも、水平切断図の曲率角度が大である。

(3) カップサイズが大きくなるに従い、若年・高年ともに、水平切断図からの曲率角度は大きくなる。